

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
「医療的ケア児に関する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携促進に関する研究」

訪問看護を利用している小児の実数調査

研究分担者 大田 えりか (聖路加国際大学国際看護学 教授)

研究要旨

高度な医療的ケアが必要な小児の場合、在宅移行後に訪問看護を利用するケースが多いことから、訪問看護事業所に小児の訪問看護利用者数と必要な医療的ケアの内容を調査し、医療的ケア児に必要な支援について示唆を得ることを目的として、アンケート調査を計画した。今後、訪問看護事業所にアンケート用紙を配布し、回収されたアンケート内容を分析する予定である。

研究協力者

沢口 恵 聖路加国際大学小児看護学

分担研究者

清崎由美子 全国訪問看護事業協会

A. 研究目的

在宅に移行する医療的ケア児が増加傾向にあるが、医療的ケア児の実数や必要な医療的ケアの内容、地域での生活を支援するための社会資源利用に関する実態が明らかになっておらず、医療・福祉・教育の連携のあり方や医療的ケア児にとって必要な社会資源の内容や支援方法が見出せない現状にある。高度な医療的ケアが必要な小児の場合、在宅移行後に訪問看護を利用するケースが多い。そこで、訪問看護事業所に対して小児の訪問看護利用者数を調査することで、医療的ケア児の実数と必要な医療的ケアの内容を把握することができ、必要な支援への示唆を得ることができると考えた。よって、小児の訪問看護利用者数から医療的ケア児の実数と必要な医療的ケアの内容を明らかにし、今後の医療的ケア児に必要な支援の示唆を得ることを目的とした。

B. 研究方法

全国訪問看護事業協会の会員である訪問看護事業所にFAXにてアンケート用紙を送付し、訪問看護を利用している小児の実数を把握する。質問項目は、小児、成人を含む訪問看護利用者数、医療的ケア児の年齢別の数と医療的ケアの内容である。

(倫理面への配慮)

アンケート用紙には訪問看護事業所の事業所番号は質問項目に入れないなど、個人が特定されないよう配慮する。聖路加国際大学研究倫理審査委員会に申請中である。

C. 研究結果

今後アンケート用紙を配布し、回収されたアンケート内容を分析する予定である。

D. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし